

大室古墳群(長野市)

資料1

古墳を観察してみよう - 「埋葬施設」と「墳丘」 -

埋葬施設 遺体を納めるための空間です。大室古墳群では基本的に石を使って作られますが、その形状により大きく4つの種類に分けることができます。



竪穴式石室 (写真: 195号墳)

平石を積み上げて四壁を作り、上部から棺を納める石室です。



箱形石棺 (写真: 189号墳)

板石を箱形に組み合わせた埋葬施設です。



横穴式石室 (写真: 197号墳)

墳丘の外への通路をもつ石の部屋です。古墳群内で多く見ることができます。



合掌形石室 (写真: 168号墳)

板石を屋根形に組み合わせて天井としたものです。下部は箱形石棺とよく似ています。

墳丘 埋葬施設を土や石で覆った丘のことです。大室古墳群では円形の墳丘が多くみられます。盛り上げられた材料により3つの種類に分けられています。

積石塚・・・石のみで墳丘を造った古墳です。上に登ると「コツコツ」と石がぶつかり合う音が響きます。

土石混合墳・・・土と石で墳丘を造った古墳です。石を用いず（どせきこんごうぶん）が、一見して盛土墳との違いはわかりません。

盛土墳・・・土で墳丘を造った古墳です。広く見られる一般的な墳丘ですが、大室古墳群では少数派です。

見学の注意

- 史跡範囲は山林原野です。怪我のないよう注意して見学してください。
- 古墳や樹木を傷つけないようにしてください。
- 指定場所以外へ車を乗り入れたり止めたりしないでください。
- ゴミはそれぞれ持ち帰りましょう。
- 火気には十分注意しましょう。
- 施設や遺品を大切にしてください。
- ほかの利用者の迷惑になる行為をしないでください。

史跡大室古墳群のご案内

■大室古墳館

入場料：無料
 開館時間：午前9時～午後5時
 休館日：月曜日（祝休日の場合はその翌日）
 祝休日の翌日（土・日曜日を除く）
 12月1日から翌年の3月31日まで

■交通案内

鉄道：長野電鉄屋代線「大室駅」下車 徒歩20分
 自動車：上信越自動車道「須坂長野東IC」から15分
 上信越自動車道「長野IC」から15分
 ※長野電鉄「大室駅」付近から案内板がありますので、それからお越しください。



■問い合わせ

長野市教育委員会 文化財課
 〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
 TEL: 026-224-7013 (直通)
 FAX: 026-224-5104
 E-mail: bunka@city.nagano.nagano.jp

史跡
おおむろこふんぐん
大室古墳群



大室古墳群大室町支所通景

長野市教育委員会



大室古墳群とは？

善光寺平の南東部、長野市松代町大室地区を中心に分布する古墳群の総称です。5世紀前半から8世紀までの約300年間に500基を超える古墳が造られ、東日本では最大規模の古墳群といわれています。石を積み上げて墳丘とした「積石塚」や、天井を壘根形に組み合わせた「合掌形石室」といった珍しい構造の古墳が集中しており、他に例をみない遺跡として古墳群の一部（約16ヘクタール）が国史跡に指定されました。

大室古墳群に葬られた人々

積石塚と合掌形石室を含む大室古墳群の形成には、朝鮮半島から日本にやってきた渡来人が深くかかわった可能性が指摘されています。また、発掘調査では馬にかかわる遺物が出土することから、古墳群には馬の飼育に携わった人々が葬られていると考えられ、平安時代の文献にあらわれる「大室牧」の成立が古墳時代までさかのぼる可能性があります。



168号墳出土馬形土製品
(写真：明治大学提供)

空から見る大室古墳群の広がり

古墳は奇妙山から千曲川に向かってのびる3つの尾根上と、これらに挟まれた谷部に集中しており、地形的に「金井山」「北谷」「壘城」「大室谷」「北山」の5つの支群に分けられます。



奇妙山
北山支群 22基
大室谷支群 241基
壘城支群 16基
北谷支群 208基
千曲川
金井山支群 18基

エントランスゾーン

史跡入口のエリアです。史跡指定以前は段々畑が広がっていましたが、現在は古墳が造られた当時の地形に復原されています。ここには24基の古墳があり、発掘調査や整備工事が順次行われています。

244号墳



235号墳 (整備後)



246号墳 (整備後)



群中最大規模で、「荷葉塚」と呼ばれています。墳丘の外周に石垣状の石積がみられます。

墳丘が失われたことによって露出した石室の裏側を、そのまま展示しています。



△ジナゴーロ

大室古墳館

大室古墳群に関する情報を、パネル・模型・ビデオなどでご案内する施設です。見学の出発点としてご利用ください。



古墳館からの眺望

△ジナゴーロ

古墳館から林道を歩くこと約15分、「△ジナゴーロ」に到着します。ここは、さまざまなタイプの古墳が集まる、大室古墳群を凝縮したような場所です。ウッドチップを敷きつめた周遊路が整備されているので、ぜひ足をのびしてみてください。

168号墳



165号墳



195号墳



186号墳



合掌形石室をみることで、さける積石塚古墳です。墳丘上から馬形土製品や埴輪、土器が出土しています。

168号墳のすぐ近くにある積石塚古墳で、2つの合掌形石室がT字形に配置されています。

周遊路の入口に位置する積石塚古墳です。竪穴式石室が2つ造られている珍しい古墳です。

造られた当時の姿がよく残っている古墳です。発掘調査により、馬の頭骨が出土しています。



福寿草

大室
古墳館



入館料:無料

開館時間:午前9時～午後5時

休館日:月曜日(祝休日の場合はその翌日)

祝休日の翌日(土・日曜日を除く)

12月1日から翌年の3月31日まで



大室古墳群遠景

大室古墳群について

大室古墳群の位置と構成

石を積み上げて墳丘とした「積石塚」や、埋葬施設の天井石を屋根形に組んだ「合掌形石室」といった、国内でも特異な構造をもつ古墳が集中することで知られる大室古墳群は、長野盆地の南東に連なる東部山地の一峰、奇妙山の山麓や山腹に形成された古墳時代中期～後期の大規模群集墳です。支脈尾根上に分布する「北山」・「霞城」・「金井山」と、これに挟まれた谷部に分布する「大室谷」・「北谷」の、地形的に区分される5つの支群により構成され、その範囲は松代町大室地区を中心とした2.5キロメートル四方にわたります。

昭和24～27年と昭和45～56年の2度行われた詳細な分布調査では、確認された総数505基もの古墳のうち土石混合墳を含めた積石塚が全体の6割～8割を占めることや、この中に合掌形石室が39基含まれていることが明らかにされました。

古墳群の北側を集落を挟んで流れる千曲川は、古墳時代には山裾近くまで湾入していました。側面と背面を山丘により遮られ、前面を千曲川によって周辺地域から隔絶された環境は、古墳群が形成される上で大きな地形的条件となったことがうかがえます。



大室古墳群の位置

支群	古墳の数	古墳の構造(不明古墳を除く)	
		積石塚	合掌形石室
北山支群	22基	3基	0基
大室谷支群	241基	176基	27基
霞城支群	16基	5基	0基
北谷支群	208基	138基	12基
金井山支群	18基	2基	0基
合計	505基	324基	39基

【長野・大室古墳群-分布調査報告書-】(長野市政府委員会1981)より



古墳の移り変わり

古墳群で最古の古墳は5世紀前半に造られた全長55メートルの前方後円墳（18号墳）です。この古墳は北山支群に属していますが、尾根の反対側にある和田東山古墳群との関わりが強いと考えられています。

5世紀中ごろになると古墳群の本格的な展開が始まり、5世紀後半まで石だけを積み上げた墳丘に、合掌形石室・箱形石棺・竪穴式石室が組み合わされた直径15メートル前後の円墳が造られています。165号墳や195号墳のように、埋葬施設を複数もつ古墳もこの時期にはみられます。

6世紀後半になると埋葬施設に横穴式石室が導入されるとともに、墳丘は土と石が混じった土石混合墳が主流になります。積石塚と合掌形石室の印象が強い大室古墳群ですが、大半を占めるのはこのタイプの古墳であり、この後8世紀まで築造が続いたと考えられています。墳形は前代と同じく円墳ながら、244号墳のように比較的規模の大きなものも造られています。



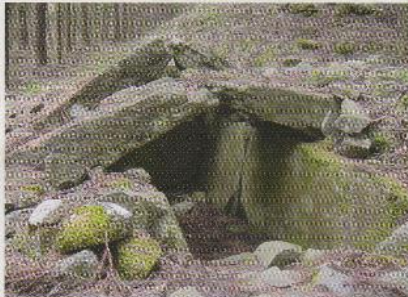
竪穴式石室
(写真: 195号墳)

平石を積み上げて四壁を造り、上部から棺を納める石室です。



箱形石棺
(写真: 189号墳)

板石を箱形に組み合わせた埋葬施設です。



合掌形石室
(写真: 168号墳)

板石を屋根形に組み合わせて天井としたものです。下部は箱形石棺とよく似ています。



横穴式石室
(写真: 197号墳)

墳丘の外への通路を持つ石の部屋です。古墳群内で多く見ることができます。

積石塚と合掌形石室をめぐることは、その起源や被葬者について特に注意が向けられ、これまでに様々な見解が示されてきました。中でも有名なものは、その起源を類似例のある朝鮮半島に求め、被葬者として朝鮮半島から日本にやってきた渡来人やその子孫をあてる考えです。さらに、馬形土製品・馬頭骨・馬具などの馬にかかわる出土遺物から、彼らが馬の飼育に従事していたことも指摘されています。

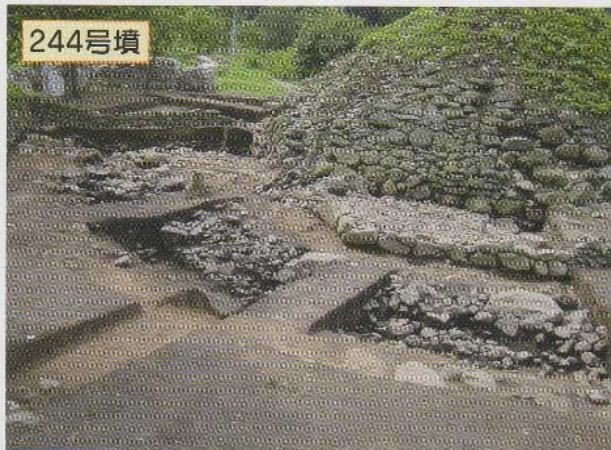
平安時代前期に記された『延喜式』に信濃十六牧の一つとして「大室牧」の名が見えるように、かつて大室周辺には馬を飼育する牧場があった可能性が高く、現在でも「牧島」・「一等牧」・「室牧」などの牧にまつわる地名が残されています。近年各地で行われた発掘調査では、大室古墳群が形成されるより以前から渡来人によって馬とその飼育技術が日本にもたらされていたことが明らかになりつつあり、古墳群の存在は大室における馬の飼育の始まりを考える上で重要な手がかりとなる可能性があります。



明治大学考古学研究室提供

168号墳出土の馬形土製品

古墳の発掘調査



群中で最大規模を誇る円墳で、「将軍塚」とも呼ばれています。墳丘外周に石垣状の石積みが見られるのが特徴的です。調査によって周溝の存在が確認されました。



墳丘の形状が四角く改変され、墳頂で埋葬施設の一部がわずかに露出していました。上部の土石を取り除いたところ、天井石と側壁が内部に崩れ落ちた横穴式石室が検出されました。

240号墳



墳丘の周囲に構築されていた後世の石垣を取り除いたところ、墳丘を高く盛り上げていく過程で設置された土留めの巨石がきれいな列をなして検出されました。

E号墳



地形復元工事を予定していた場所から新たに発見された古墳です。畑の下から横穴式石室の床面が検出され、鉄鏃・刀子・耳環などの副葬品のほか、人骨も見つかりました。

古墳の保存修理

235号墳



墳丘の半分が失われ、通常は見えない横穴式石室の裏側が露出していた古墳です。整備では墳丘の復原は行わず、そのままの状態を保存しました。

246号墳



崩れかけていた石室の石を積み直して一部を盛土で保護したうえで、発掘調査で見つかった石室を囲む3重の石列を再現した整備を行いました。



電車で訪れる場合は長野電鉄屋代線「大室駅」から徒歩20分です。

大室古墳館



中央こちらを向いたベレー帽の人が元埼玉県立博物館館長であった金井塚先生



さあ、山登りです。



右端が解説を引き受けてくれた、長野市教育委員会の方です。

189号墳



189号墳



189号墳

確実に箱形石棺と判断できる数少ない古墳で、石棺の上には水平に設置された天井石が残されています。墳丘の一部は林道によって削平されています。



箱形石棺
(写真:189号墳)

板石を箱形に組み合わせた埋葬施設です。

184号墳



176号墳



176号墳



176号墳

とても規模の大きな積石塚で、崩れかかった合掌形石室が上部に残されています。石室の位置から考えると、これとは別の埋葬施設が存在する可能性があります。

168号墳



168号墳



168号墳



168号墳



168号墳

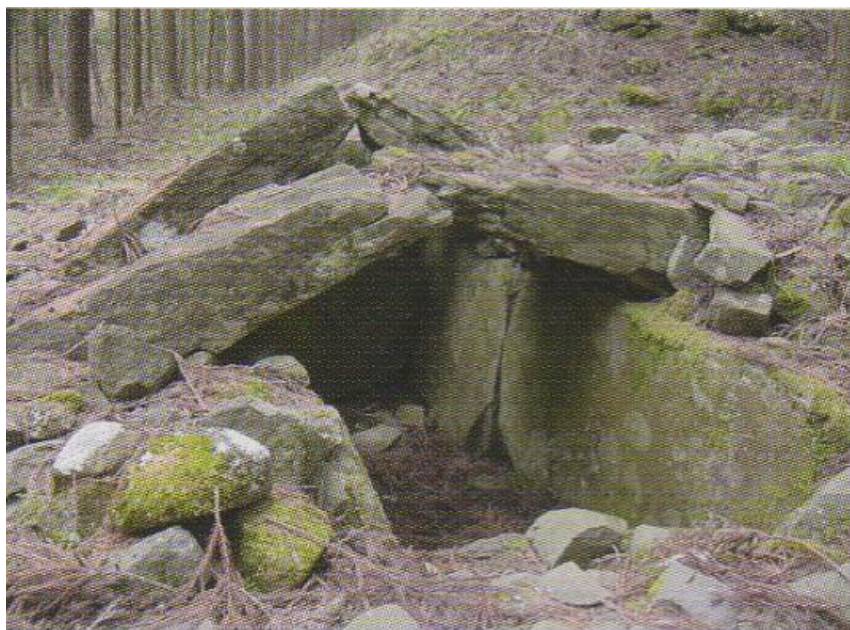


168号墳



168号墳

合掌形式石室がよく残されており、大室古墳群を代表する古墳の一つとして知られています。墳丘上から馬形土製品や埴輪・土器などが出土しています。



合掌形石室 (写真:168号墳)

板石を屋根形に組み合わせて天井としたものです。下部は箱形石棺とよく似ています。



明治大学考古学研究室提供

168号墳出土の馬形土製品

156号墳



155号墳



※ 感想:ここへは講師とともにバスで団体として行き、講師の方々のコネクションで有意義に見学が行われましたが、個人で行く場合はなかなか難しいと思いました。

資料11



史跡大室古墳群見学マップ

～△ツナゴロー周遊路編～

所要時間：約1時間（大室古墳館との往復を含む）

- 横石塚 △ 合掌形石室・箱形石棺
- 土石混合墳 □ 竪穴式石室
- 盛土墳 ▭ 横穴式石室
- ? 不明

墳丘・埋葬施設の種別は、『長野・大室古墳群・分布調査報告書』(長野市教育委員会 1981)を一部修正したものです。今後の調査により変更される可能性がありますのでご了承ください。



周遊路入口へは徒歩で移動してください。一部は山林ですので、安全には十分注意して見学してください。



186号墳

造られた当時の姿をよく留めている古墳です。横穴式石室の前庭から、土器とともに馬の頭骨が出土しており、被葬者と馬との関わりを示しています。

187号墳

古墳群で多く見られる横穴式石室の中でも、古い段階に造られたと考えられる古墳です。側壁の一番下の石材が縦方向に据えられているのが特徴的です。

189号墳

確実に箱形石棺と判断できる数少ない古墳で、石棺の上には水平に設置された天井石が残されています。墳丘の一部は林道によって削平されています。

168号墳

合掌形石室がよく残されており、大室古墳群を代表する古墳の一つとして知られています。墳丘上から馬形土製品や埴輪・土器などが出土しています。

165号墳

T字形に2つの合掌形石室が配置されている珍しい古墳です。東側の石室には屋根型の天井石は残されていませんが、喪壁の形状から合掌形石室と判断できます。

176号墳

とても規模の大きな横石塚で、崩れかかった合掌形石室が上部に残されています。石室の位置から考えると、これとは別の埋葬施設が存在する可能性があります。

195号墳

大室古墳群では類例の少ない竪穴式石室が2基ある珍しい古墳です。失われている天井石は、側壁の一番上にある大きな平石上に設置されていたと考えられます。



周遊路入口

2009年6月 長野市教育委員会文化財課